



(補足資料)
2021年3月期
通期業績予想及び配当予想

2020年9月24日
九州旅客鉄道株式会社



KYUSHU RAILWAY COMPANY



業績予想について



- 2021年3月期の通期業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により収入動向等が極めて不透明であり、合理的な算定が困難であることから未定としておりました。
- 新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として見通せない状況ですが、緊急事態宣言解除以降の収入動向等を踏まえ、現時点において入手可能な情報をもとに一定の前提を置いて、業績予想を算定いたしましたので公表いたします。
- なお、今回の業績予想は、再度の緊急事態宣言など大規模な社会活動の制限は想定しておりません。
また、2020年7月に九州各地で発生した「令和2年7月豪雨」による被害の復旧費用については、現時点で合理的に見積もることが困難なものは含めておりません。

連結業績予想ハイライト



(単位：億円)

	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	4,326	2,917	△ 1,409	67.4%
営業利益	494	△ 323	△ 817	-
経常利益	506	△ 314	△ 820	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	314	△ 284	△ 598	-
EBITDA ^(※)	750	△ 42	△ 792	-

※EBITDA=営業利益+減価償却費（転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費除く）以下、全て同様です。

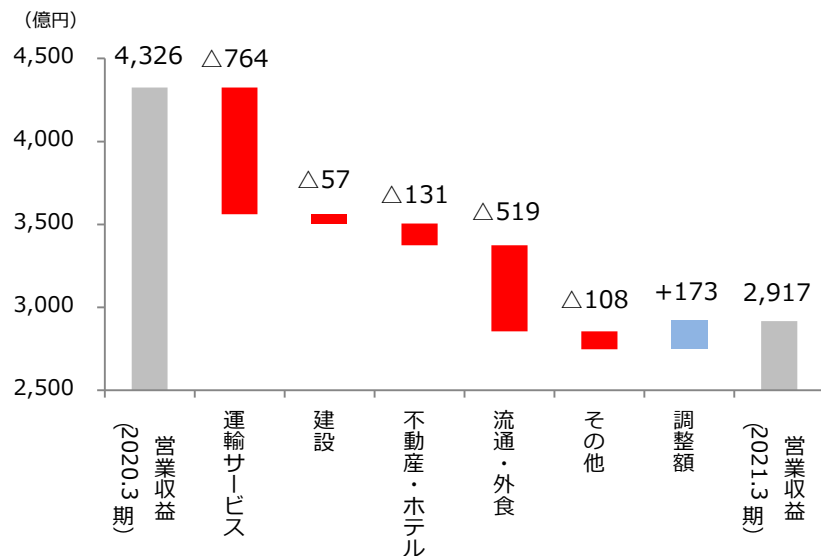
営業収益

鉄道旅客運輸収入の減（△697億円）に加え、JR九州ドラッグストアの持分法適用会社への変更の影響（△397億円）等により大幅に減収

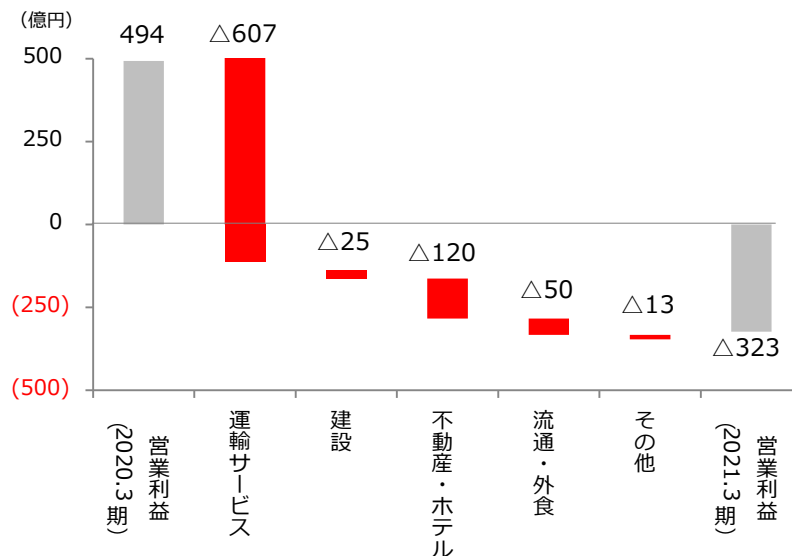
営業利益

単体で約140億円、グループ会社で約30億円の
コスト削減を計画するも、営業収益の大幅な減少
に伴い減益

セグメント別営業収益



セグメント別営業利益



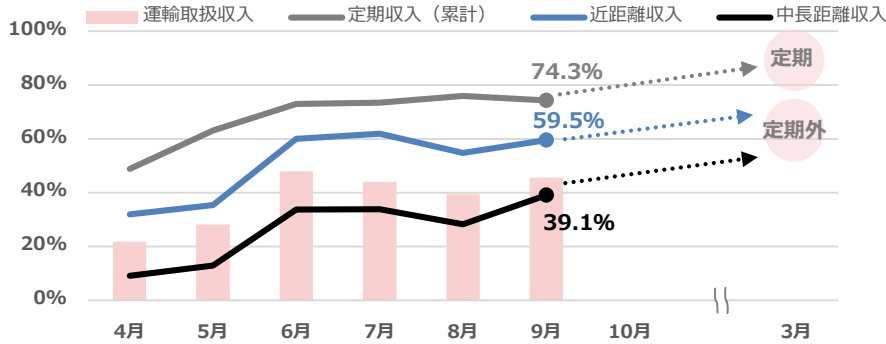
主なセグメントの前提条件及び設備投資計画



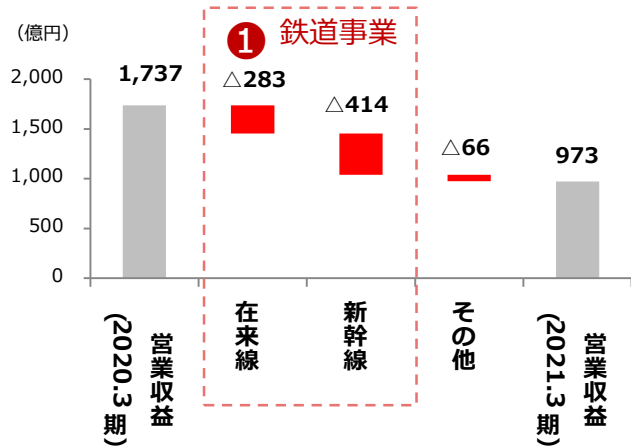
運輸サービスセグメント

- ① 定期収入は3月に平常時の9割程度まで回復
定期外収入(近距離・中長距離)は3月に平常時の6~7割程度まで回復

運輸取扱収入等の対前年推移

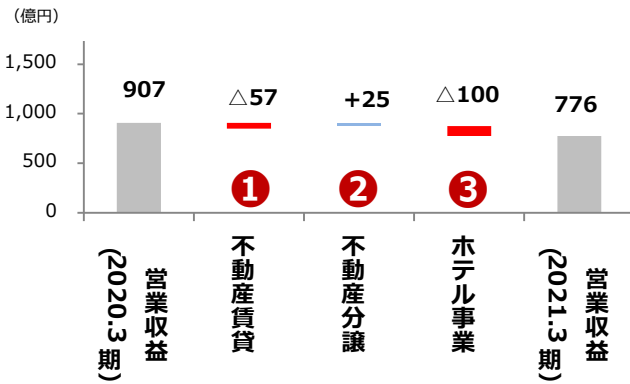


※9月は22日までの速報ベース
※運輸取扱収入：JR他社やその他鉄道会社等との清算前の収入。損益計算書に計上される運輸収入とは異なる



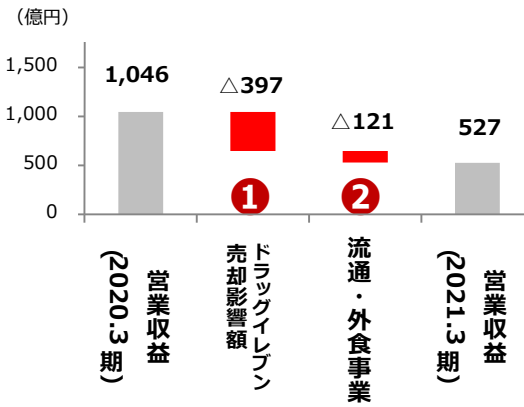
不動産・ホテルセグメント

- ① 7~8月の駅ビルテナント売上は対前年6割程度で推移
3月に平常時の7~8割程度まで回復
- ② 大阪・福岡エリアにおける堅調な販売を見込む
- ③ 7~8月の稼働率は3割程度で推移
3月に稼働率は4~5割程度まで回復



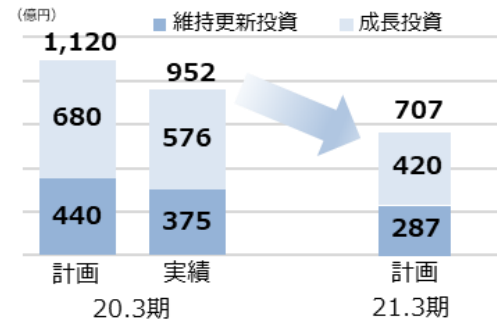
流通・外食セグメント

- ① JR九州ドラッグイノベーション株式譲渡の影響額は約397億円
※1Q末より持分法適用会社に変更。2~4Qは収益に含まない
- ② 7~8月の売上高は対前年7割程度で推移
3月に平常時の8割程度まで回復



設備投資計画

- 延期・抑制により大幅な削減を計画
- 【主な成長投資案件】
- ・宮崎駅西口開発
 - ・熊本駅周辺開発 (オフィス2棟、賃貸マンション)
 - ・賃貸マンション開発 (大阪、福岡IR)



セグメント別業績予想



(単位：億円)

	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 通期予想	対前年	主な増減理由	
営業収益	4,326	2,917	△ 1,409	67.4%	
運輸サービス	1,737	973	△ 764	56.0%	新型コロナウイルス感染症の影響による旅客需要の減（鉄道、高速船、バス）
単体・鉄道事業	1,652	922	△ 730	55.8%	
建設	993	936	△ 57	94.2%	JR九州からの鉄道工事受注の減
不動産・ホテル	907	776	△ 131	85.5%	
不動産賃貸	552	495	△ 57	89.6%	新型コロナウイルス感染症の影響による賃貸収入の減（主に駅ビル）
不動産販売	189	215	25	113.6%	マンション販売収入の増
ホテル事業	166	66	△ 100	39.7%	新型コロナウイルス感染症の影響による宿泊者数の減
流通・外食	1,046	527	△ 519	50.4%	JR九州ドラッグ・イルブンの株式一部譲渡、新型コロナウイルス感染症の影響
その他	721	613	△ 108	84.9%	新型コロナウイルス感染症の影響、リース・割賦事業の譲渡による減
営業利益	494	△ 323	△ 817	-	
運輸サービス	198	△ 409	△ 607	-	
単体・鉄道事業	200	△ 391	△ 591	-	
建設	65	40	△ 25	60.8%	
不動産・ホテル	191	71	△ 120	37.1%	
不動産賃貸	167	114	△ 53	67.9%	
不動産販売	15	19	3	121.3%	
ホテル事業	7	△ 62	△ 69	-	
流通・外食	28	△ 22	△ 50	-	
その他	22	9	△ 13	39.4%	
EBITDA	750	△ 42	△ 792	-	
運輸サービス	295	△ 298	△ 593	-	
単体・鉄道事業	288	△ 284	△ 572	-	
建設	76	50	△ 26	65.0%	
不動産・ホテル	305	197	△ 108	64.4%	
不動産賃貸	261	216	△ 45	82.7%	
不動産販売	15	19	3	120.5%	
ホテル事業	28	△ 38	△ 66	-	
流通・外食	44	△ 8	△ 52	-	
その他	43	28	△ 15	64.5%	

単体業績予想



(単位：億円)

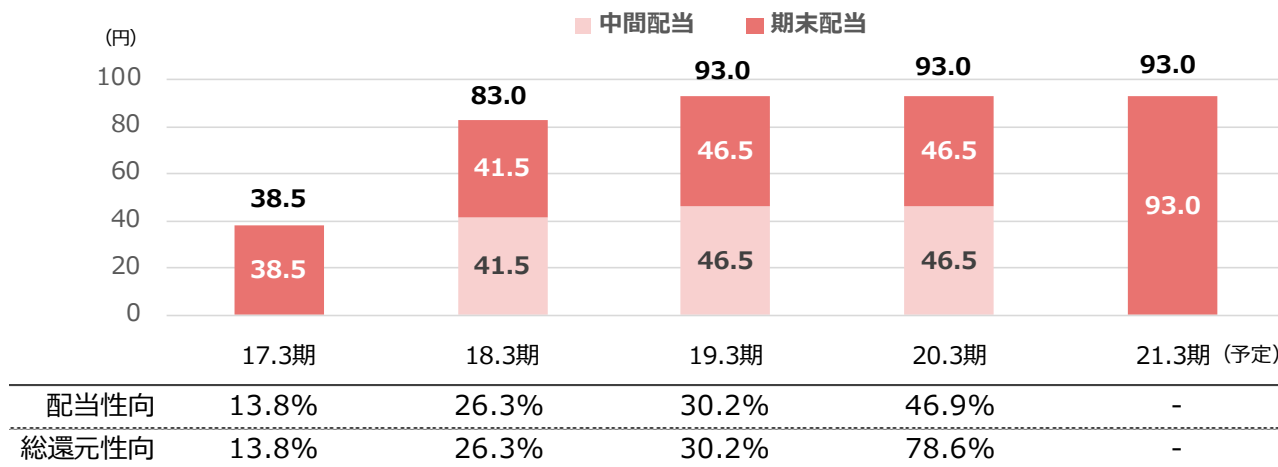
	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 通期予想	対前年		主な増減要因	コスト 削減額
営業収益	2,148	1,450	△ 698	67.5%		
鉄道旅客運輸収入	1,473	776	△ 697	52.7%	新型コロナウイルス感染症の影響	
新幹線	523	240	△ 283	45.9%		
在来線	950	536	△ 414	56.4%		
その他収入	675	674	△ 1	99.8%		
営業費用	1,804	1,695	△ 109	93.9%		△ 140
人件費	487	395	△ 92	81.0%	病院事業売却による減 (△20)、社員数減少による自然減	△ 60
物件費	1,055	1,012	△ 43	95.9%		
動力費	92	84	△ 8	91.0%		△ 5
修繕費	334	302	△ 32	90.2%		△ 35
その他	628	626	△ 2	99.6%	病院事業売却による増 (+20)、マンション販売原価の増 (+18)	△ 40
租税公課	107	109	1	101.5%		
減価償却費	154	179	24	115.8%		
営業利益	343	△ 245	△ 588	-		
営業外損益	61	87	25	140.6%	受取配当金の増	
経常利益	405	△ 158	△ 563	-		
特別損益	△ 63	35	98	-	JR九州ドラッグストアの株式一部売却による増 (+90) 「QUEEN BEETLE」減損等に係る債務保証等損失引当金増の反動 (+65) 日田彦山線復旧に係る災害損失引当金の増 (△21) 令和2年7月豪雨に伴う災害経費の増 (△33)	
当期純利益	286	△ 114	△ 400	-		

配当予想について



- 当社は、株主に対する利益の還元を経営上重要な施策の一つとして位置づけており、株主還元については長期安定的に行っていくことが重要と考えております。2022年3月期までの間は、1株当たり配当金93円を下限として、連結配当性向35%を目安に行うこととしております。加えて、資本効率の向上を図るため、状況に応じて自己株式取得を行うこととしております。
- 2021年3月期の業績は非常に厳しい見通しであります。上記の方針に基づき検討した結果、2021年3月期の配当予想は、1株当たり年間配当金93円とする予定です。
- なお、中間配当及び期末配当の年2回に分けて剰余金の配当を行ってまいりましたが、新型コロナウイルス感染症による今後の業績への影響等を慎重に見極める必要があるため、2021年3月期は中間配当を行わず、期末配当の年1回とする予定です。

1 株当たり年間配当金の推移



※自己株式取得 (100億円)

将来の見通しに関する記述について



本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、国内外及び九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。
JR九州ホームページ

<http://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>